

TAKE NINAGAWA

バイオグラフィ

大竹伸朗

Shinro Ohtake

1955年東京生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

- 2019 「ビル景 1978-2019」, 熊本市現代美術館, 熊本; 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城 (開催予定)
- 2016 「Shinro Ohtake: Paper - Sight」, シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート (STPI), シンガポール
「時憶」, Take Ninagawa, 東京
「SHOW-CASE project No. 3」, 慶應義塾大学 三田キャンパス, 東京
- 2014 「大竹伸朗」, パラソルユニット現代美術財団, ロンドン
「既憶景」, 宮浦ギャラリー六区, 直島, 香川 (主催: 公益財団法人福武財団)
- 2013 「'00 - '12」, Take Ninagawa, 東京
「大竹伸朗: 憶速」, 高松市美術館, 香川
「大竹伸朗展: ニューニュー」, 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 香川
「焼憶展」, INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館, 愛知
- 2012 「大竹伸朗」, アートゾンジェ・センター, ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」, 佐賀町アーカイブ, 東京
- 2010 「#65 | 2005 - 2010」, Take Ninagawa, 東京
「#65」, Take Ninagawa, 東京
- 2009 「貼貼貼/Shell & Occupy 4」, Take Ninagawa, 東京
- 2008 「貼貼貼/Shell & Occupy 3」, Take Ninagawa, 東京
「貼貼/Shell & Occupy 2」, Take Ninagawa, 東京
「貼/Shell & Occupy」, Take Ninagawa, 東京
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」, 広島市現代美術館(広島), 福岡市美術館(福岡)- 2007
- 2006 「大竹伸朗と別海」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 全景1955-2006」, 東京都現代美術館, 東京
- 2004 「UK77 写真、絵、貼1977-78年」, ベイスギャラリー, 東京
- 2002 「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展1982-2000」, ベネッセハウス直島コンテンポラリーアート
ミュージアム, 香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景」, エプソン・イメージング・ギャラリー, 東京
- 2000 「ダブ景 大竹伸朗」, KPOキリンプラザ, 大阪
「大竹伸朗展」, ベイスギャラリー, 東京
- 1999 「ZYAPAIORAMA 大竹伸朗展」, パルコギャラリー, 東京
- 1998 「新津-あいまいで私が日本 大竹伸朗展」, 新津市美術館, 新潟
- 1997 「大竹伸朗 プリンティング/ペインティング」, CCGA現代グラフィックアートセンター, 福島

TAKE NINAGAWA

- 1994 「大竹伸朗の新作版画展 カスバの男 モロッコ日記」, 西武アート・フォーラム, 東京
- 1993 「大竹伸朗 網膜」, ギャラリー・ところ, 東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」, 西武アート・フォーラム(東京), なんばCITYホール(大阪)- 1991
- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」, 寺田倉庫Space T33, 東京
「大竹伸朗 Recent Works 1988-1990」, ギャラリー・ところ, 東京
- 1988 「CANVASISM-夢と細胞 大竹伸朗新作展」, 西武アート・フォーラム, 東京
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」, 佐賀町エキジビット・スペース, 東京
- 1986 「ロンドン/ホンコン 1980」, ヒルサイド・ギャラリー, 東京
- 1985 「大竹伸朗-放浪する言語/未来の日本前衛」, パラッツォ・ビアンコ, ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング/カラージュ」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA), ロンドン
- 1984 「大竹伸朗 1983-1984」, ギャラリー・ワタリ, 東京
- 1982 「大竹伸朗 個展」, ギャラリー・ワタリ, 東京

主なグループ展

- 2019 「瀬戸内国際芸術祭2019」, 豊島, 香川 (開催予定)
「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」, 東京都現代美術館, 東京 (開催予定)
「ニュー・ペインティングの時代」, 高知県立美術館, 高知
- 2018 「バブルラップ:「もの派」があって、その後のアートムーブメントはいきなり「スーパーフラット」になっちゃうのだが、その間、つまりバブルの頃って、まだネーミングされてなくて、其処を「バブルラップ」って呼称するといろいろしくりくると思います。特に陶芸の世界も合体するとわかりやすいので、その辺を村上隆のコレクションを展示したりして考察します。」, 熊本市現代美術館, 熊本
「The 9th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art」, クイーンズランド州立美術館 / ギャラリー・オブ・モダン・アート, ブリスベン
「Sharjapan: The Poetics of Space」, Al Hamriyah Studios, シャルジャ (curated by 長谷川祐子)
「EPOCH」, ROH Projects, ジャカルタ
「Flash 1977/1989」, ハラミュージアム アーク, 群馬
「起点としての80年代」, 静岡市美術館(静岡), 高松市美術館(香川), 金沢21世紀美術館(石川)- 2019
「181枚の記憶-高松市美術館特別展の歩み-」, 高松市美術館, 香川
「10th Anniversary」, Take Ninagawa, 東京
「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」, 平塚市美術館, 神奈川
「モダンアート再訪 - ダリ, ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」, 横須賀美術館(神奈川), 広島市現代美術館(広島), 埼玉県立近代美術館(埼玉), 鳥取県立博物館(鳥取)- 2018
「開館40周年記念展 トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」, 国立国際美術館, 大阪
- 2017 「In Focus: Contemporary Japan」, ミネアポリス美術館, ミネソタ
「日本の絵本100年の歩み」, ちひろ美術館, 東京
「Japanorama: New Vision on Art since 1970」, ポンピドゥー・センター・メッセ (curated by 長谷川祐子)
- 2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか。」, 大岡信ことば館, 静岡
「所蔵作品展: MOMATコレクション」, 国立近代美術館, 東京
「The Keeper」, ニューミュージアム, ニューヨーク
「瀬戸内国際芸術祭2016」, 豊島, 香川
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」, マンチェスター・アート・ギャラリー(マンチェスター), バービカン・センター(ロンドン)- 2017

TAKE NINAGAWA

- 2015 「AN IMPRECISE SCIENCE」, Artspace, シドニー
「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: コレクション・ピカミン」, 東京都現代美術館, 東京
- 2014 「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: クロニクル1995ー」, 東京都現代美術館, 東京
「ヨコハマトリエンナーレ2014: 華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」, 新港ピア, 横浜
- 2013 「5th Anniversary」, Take Ninagawa, 東京
「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ: エンサイクロペディック・パレス」, ヴェネチア
「瀬戸内国際芸術祭 2013」, 女木島, 香川
「路上と観察をめぐる表現史ー考現学以後」, 広島市現代美術館, 広島
- 2012 「ドクメンタ (13)」, カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」, モスクワ市近代美術館(モスクワ),
ハイファ美術館群(ハイファ)ー 2012
- 2010 「光州ビエンナーレ2010: 10,000 Lives」, 光州
「これも自分と認めざるをえない」, 21_21 DESIGN SIGHT, 東京
「瀬戸内国際芸術祭 2010」, 直島, 香川
- 2009 「I BELIEVE: 日本の現代美術」, 富山県立近代美術館, 富山
- 2006 「武満徹: Visions in Time」, 東京オペラシティアートギャラリー, 東京
- 2004 「再考: 近代日本の絵画ー美意識の形成と展開・第2部」, 東京都現代美術館, 東京
- 2001 「スタンダード展」, 直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」, うらわ美術館ギャラリーD, 埼玉
- 1999 「日本ゼロ年」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城
「時代の体温 ART/DOMESTIC」, 世田谷美術館, 東京
- 1996 「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗+ヤマタカ・アイ」,
ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
- 1994 「600ソウル国際美術展」, 国立現代美術館, ソウル
「断面1979-1994 原美術館15周年記念展」, ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」,
ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
- 1993 「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」, クイーンズランド州立美術館, ブリスベン
- 1991 「キャビネット・オブ・サインズ」, マルメ・クンストフェライン(マルメ), ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン),
テート・ギャラリー(リバプール)ー 1992
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」, レイキャビック市立美術館(レイキャビック),
ヘルシンキ市立美術館(ヘルシンキ), シャーロットンボルグ美術展会場(コペンハーゲン),
ストックホルム文化会館(ストックホルム)ー 1991
「幻想の力: 日本の近・現代美術から」, 宮城県美術館, 宮城
「80年代の日本現代美術」, ブレゲンツ・フェストシュピール(ブレゲンツ), ウィーン近代美術館(ウィーン),
ボン・クンストフェライン(ボン), フランクフルト・クンストフェライン(フランクフルト)ー 1991
「ニュー・ネセシティ 第1回タイン国際現代美術展」, ニューキャッスル
「作法の遊戯: 90年春・美術の現在」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城
- 1989 「アゲインスト・ネイチャー: 80年代の日本現代美術」, ヒューストン現代美術館(ヒューストン),
ニューヨーク大学グレイアートギャラリー(ニューヨーク), シンシナティ現代美術センター(シンシナティ),
シアトル美術館(シアトル), MITリスト視覚芸術センター・ボストン銀行 アート・ギャラリー(ボストン),
アクロン美術館(アクロン), サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ)ー 1991
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った“本”の展覧会」,
フランクリン・ファーンズ, ニューヨーク
- 1984 「第20回今日の作家'84展 [面]をめぐる表現の現在」, 横浜市民ギャラリー, 神奈川

TAKE NINAGAWA

- 1981 「ART POP Japan-Tokyo Today」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA), ロンドン
1979 「θ (シータ)」, ヴィレッジ・ギャラリー, 東京

主なライブ・パフォーマンス

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96, ラフォーレミュージアム原宿, 東京
-パズルパンクスの初ライブパフォーマンス, 遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパンクス」結成, 初CDブック「パイプライン」(UCA) 発表
1985 「ライブ・ワンズ! 1985」, ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・
パフォーマンス, オックスフォード近代美術館, ロンドン
1980 「クルバ・カポル」, B・C・ギルバート, グレアム・ルイス, ラッセル・ミルズとのサウンド・
パフォーマンス, ノートルダム・ホール, ロンドン
1978 音響実験グループ「JUKE/19.」活動開始, 81年までにLP, EP5枚制作

主なパブリック・ワーク

- 2019 「覗き岩」, 宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま, 愛媛 (設置予定)
2016 「針工場」, 公益財団法人福武財団, 豊島, 香川
2013 「女根／めこん」, 公益財団法人福武財団, 女木島, 香川
2009 「直島銭湯 I♥湯」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川
2006 「はいしゃ 〈舌上夢／ボッコン覗〉」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川
2000 「北の空に浮かぶカタチ」, 札幌市生涯学習センター・ちえりあ, 北海道
1994 「シップヤード・ワークス」シリーズ: 「切断された船首」, 「船尾と穴」, 「船首と穴」, 「隔壁 I-VII」,
「箱の上の隔壁 I-II」, 株式会社ベネッセホールディングス, 直島, 香川

レジデンシー

- 2015 シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート(STPI), シンガポール
1995 アトランタ・オリンピック委員会(ACOG)及びオリンピック文化機関の招聘によりアトランタに滞在
1989 アメリカ・インフォメーション・エージェンシー(USIA)及びアーティストコロニー基金の招聘により
米国に滞在

受賞

- 2014 芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門

主なパブリックコレクション

ニューヨーク近代美術館
ミネアポリス美術館
ダラス現代美術館
ヴィクトリア&アルバート博物館
M+
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
世田谷美術館
富山県立近代美術館
愛媛県美術館
高知県立美術館
駒ヶ根高原美術館

TAKE NINAGAWA

佐久市立近代美術館
広島市現代美術館
ふくやま美術館
福岡市美術館
新津市美術館
高松市美術館
ベネッセアートサイト直島
彫刻の森美術館
東京オペラシティアートギャラリー
原美術館
セゾン現代美術館
CCGA現代グラフィックアートセンター
公益財団法人福武財団
札幌市生涯学習総合センター・ちえりあ
宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま

主な出版物

- 2013 「ピ」 新潮社, 東京
2010 「NOTES 1985-1987」 ジェイ・ブイ・ディー, 東京
「直島銭湯 I♥湯」 青幻社, 東京
2008 「見えない音、聴こえない絵」 新潮社, 東京
2007 「大竹伸朗 全景」 大竹伸朗全景展実行委員会, 東京
「大竹伸朗展 - 路上のニュー宇宙」, 大竹伸朗展実行委員会, 福岡
2006 「ネオンと絵具箱」 月曜社, 東京
2005 「既にそこにあるもの」 筑摩書房, 東京
2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」 集英社, 東京
「UK77」 月曜社, 東京
2002 「テレピン月日」 晶文社, 東京
「18」 青山出版社, 東京
1999 「ZYAPAIORAMA 日本景」 朝日新聞社, 東京
1997 「YMCB」 トランスアート, 東京
1993 「ジャリおじさん」 福音館書店, 東京
1991 「SO:大竹伸朗の仕事 1955-91」 UCA宇和島現代美術, 東京
1986 初画集「<倫敦／香港>1980」 用美社, 東京
1982 「PSYCHEDELIC MAGAZINE LTD. vol.1」 東京オペレーションセンター, 東京レジデンシー